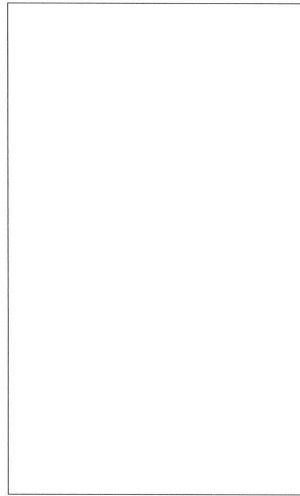


① (旧記 訴訟・生業)

〔宗紙、題箋なし〕



〔朱書(二)「三十七」の朱書部分には前略〕

- 〔一〕御訴訟ニ罷出候者町役人江無断罷出申間敷旨連判之事
- 〔二〕先年御願事中上御沙汰無之儀可申上旨被仰渡之事
- 〔三〕出入有之者預証文之儀ニ付被仰渡御触之事
- 〔四〕惣而公事合御番所証文取集可差上旨被仰渡之事
- 〔五〕自今訴詔人御番所江罷出候節、御差紙可被遣旨被仰渡、御差紙御案文之事
- 〔六〕願事ニ付罷出候ハ、其支配名主方江御差紙被遣候旨被仰渡、御差紙御案文之事
- 〔七〕訴訟諸願出入等名主奥判之儀并取計方被仰渡之事
- 〔八〕余中ニ而手負人有之節、御徒士目付御見分之上御差図を請可申儀并、訴方之儀被仰渡之事
- 〔九〕御番所御門内名主傘御免之事
- 〔十〕高積御定、附火致候者可召捕儀、遺跡帳附之儀、諸御触事裏々迄入念可申間儀被仰渡之事

- 〔十一〕右高積之儀御定尺窺之事
- 〔十二〕草分名主申合一件
- 〔十三〕御番所御腰掛茶屋之者敷物代之儀ニ付、名主より御届申候一件
- 〔十四〕御番所御腰掛江酒并目立候者持参仕間敷旨被仰渡之事
- 〔十五〕万石以上以下御儉約被仰渡御書付写
- 〔十六〕絹紬・布木綿寸尺御定被仰渡候ニ付、町々より連判取候事
- 〔十七〕会津曆売候者見付、曆問屋江取候証文之事
- 〔十八〕新材木町稻荷社地ニ而猫損候ニ付御検使之事
- 〔十九〕着船高書上之事
- 〔廿〕竹簾皮財布かつき候古鉄せり売并仲買之者御尋之事
- 〔廿一〕鉄炮所持之者書上之事
- 〔廿二〕桶師手間飯米代書上之事
- 〔廿三〕點塗方存候者御用之由ニ付書上之事
- 〔廿四〕刀・脇差鍛冶御尋ニ付書上之事
- 〔廿五〕此方并角屋敷之者御年頭書上之事
- 〔廿六〕御手判之儀ニ付被仰渡之事
- 〔廿七〕箱根御関所御定目写
- 〔廿八〕同所御手判之写
- 〔廿九〕土船商売願人有之ニ付返答書之事
- 〔三十〕川船御役所江船持人別江名主奥判之儀ニ付窺書被仰渡并其外一件
- 〔三十一〕辻駕籠御免許願一件

「三十二」一、通旅籠町書役惣助・半兵衛兩人暇差遣并御配府触次之儀、其後兩人共帰役申付候一件

「三十三」一、高瀬荷物問屋願人有之ニ付奥州船問屋共返答書一件

「三十四」一、古鉄改惣代願人并返答書之事

「三十五」一、町々明地・明店多候由之処人別高者減不申訳、并紛失物組合御届方之儀ニ付御尋并返答書之事

「三十六」一、油高直ニ付素人仕入御尋ニ付返答書一件

「三十七」一、紛失物之儀御尋之趣并存寄返答書之事

〔朱書〕

「一」

一、前々より被仰付候、御 公儀様江御訴詔之儀御座候而罷出候ハ、借屋・店かり・汁付等<sup>（マ）</sup>ニ至迄、名主・五人組・家主江其品々を断、様子為申聞、差図を請可罷出候、自然無断御 公儀様江罷出候ハ、可為越度候、為後日町中家持連判仍如件

寛文五年巳二月廿二日

十兵衛

外 四拾貳人連印

馬込勘解由殿

佐久間善八殿

〔朱書〕

「一」

御配府ニ而喜多村江被召呼被申渡候

一、先年公儀江御願事申上、御沙汰茂無之打捨置候様成儀有之候ハ、訴

状之写ニ願人致印形同文言ニ而二通ニ認、此方計江可差出候、但今度御取上可被成爲ニも無之、前方願之内御覽被成度品在之、耽与不相

知候ニ付銘々御尋ニ候間、願人御番所江罷出候儀者必無用之段可被申渡候、且又御取上無之ニ極候願事者書上ニ不及候、此旨其向寄<sup>（マ）</sup>江名主中江も可被申通候、以上

享保二年亥五月九日

右来ル廿日迄喜多村殿江御返答可被仰上候

〔朱書〕

「二」

寛

一、出入有之者を見出、預り証文取不申公事合ニ出候者ハ裁許不申付、且又預ケ候者<sup>（マ）</sup>を不預候ハ、早々月番之番所江可訴出候、預り候者も無筋預ケ与存候共先預り証文を遣シ、早速其訳訴出候様前々も相触候処、此頃者右之類猥ニ罷成候、向後者弥右之趣相守、出入有之者并欠落者を見出し候節不預候ハ、当人を召連不限昼夜月番之番所江可訴出候、預り候者<sup>（マ）</sup>を若無筋之筋有之候共先預り置、早々訴出候ハ、吟味之上無筋ニ預候者ハ、当人者不及申家主・五人組迄可為越度候并可預ル筋之者<sup>（マ）</sup>を預り不申、或者当人留守等与申、其外不埒成致挨拶申延候族於有之者、是又掛り方訴出次第家主・五人組迄急度可申付候、尤預ケ候者<sup>（マ）</sup>を預ケ捨ニ致、年月を経訴出候分者取上申間敷候条、此旨町中可触知者也

戌九月

右之通被仰渡候間、此旨町中裏々迄不殘可被相触候、以上

九月

右御触之趣慥承届御請負申上候間、町中家持者不及申借屋・店かり・

裏々召仕等迄此旨為申聞、急度相守可申候、若相背候者於有之者何様之  
曲事ニも可被仰付候、為後日町中連判之手形差上申候、仍如件

享保三年戌九月廿八日

〔朱書〕  
「四」

一、惣而公事合之御番所証文有之分不殘取集、名主支配切ニ仕、右御掛  
之御番所江取集次第可相納事

右者享保四年亥十一月十五日喜多村ニ而被申渡候事

〔朱書〕  
「五」

喜多村ニ而申渡覺

一、自今訴詔人御奉行所江罷出候ハ、左之通御差紙可被遣候間、無滞  
遂吟味日限無相違可罷出事

御差紙御文言

如斯訴出候間、双方家主・名主・五人組立合、来ル幾日迄之内可  
相済候、若不埒明候ハ、同幾日九ツ時双方召連可罷出者也

何月誰番所

何町  
訴訟人

誰  
家主

〔朱書〕  
「六」

一、惣牀願事ニ付願人御奉行所江罷出候ハ、其支配之名主方江左之通  
御差紙願人為持可被遣候間、早々遂吟味日限無相違願人名主召連可  
罷出候事

諸願御差紙文言

如斯願出候、町内ニ而障之有無遂吟味、大勢之者難儀不仕義ニ候  
ハ、来ル幾日願人召連可罷出者也

何月誰番所

何町

願人  
名主  
誰

右者享保六丑年五月申渡

〔朱書〕  
「七」

名主與判之事

一、町中訴詔・諸願・出入等有之時ハ、自今其所之名主與判無之ニおゐ  
てハ奉行所ニ而取上ざる間、其旨可相心得事

何町  
相手

名主  
五人組  
誰  
家主  
名主  
五人組

一、名主奥判之事、其品輕キ儀者名主取計可相濟、名主手前ニ而難濟事者致奥判奉行所江可差出事

但名主附添出候ニ者不及候、公事合之節者只今迄之通名主附添可出事

一、事品輕キ儀ニ而名主取計可濟儀を致奥判奉行所江差出候ハ、名主呼寄名主方ニ而可取扱旨申付可差戻候間、其旨可相心得事

一、惣而名主取計非分之儀有之歟、又者奉行所江可差出儀を名主不致奥判久敷押置候ハ、訴訟人其品可申出、無奥判共可取上候事

但名主手前遂僉儀可相答事

右之趣自今可相触、尤名主依怙最厚なく、其上礼等或者判賃等取へからず、若相背名主あらハ町中より可訴来、急度可相答事

享保 (金白マ)

〔八〕<sup>(朱書)</sup> 申渡

一、惣而余中ニ而手負人有之、御徒目付見分之上理不尽者ニ出合手疵負候者宿等相知候ハ、早速於場所御徒目付申渡宿江預ケ療治申付候間、兼而其旨相心得、町方ニ有之宿呼ニ来候ハ、番所江伺ニ不及場所江罷越、御徒目付差図次第引取可致養生、引取候以後番所江相届可申候、右者武士方之構之場所ニ而之事ニ候得共、於町方ニ惣而右之通可相心得候

右之趣町中名主江為申聞、家主共江も為申聞置候様可申渡候

寅五月

右之通從 御奉行所被仰渡候間此旨可被存候

享保十九年寅五月

一、享保二十一年丙辰五月七日年号改元御触元文元年与改

〔九〕<sup>(朱書)</sup>

一、雨天之節、両御番所御門内江名主共傘指不申、御礼日等ニ者別而難儀致候ニ付、相談之上左之拾三人辰五月朔日樽屋殿江右傘御免被成下候様相願候得者、同月六日御内寄合江御伺被成候処、願之通御免被仰付、翌七日右拾三人被召呼御免被遊候段被仰渡候間、左之通組合中江廻状出ス、尤拾三人之名前樽屋殿御帳面ニ記置候ニ付年番帳面ニ書記置

元文元年辰五月

長谷川伊左衛門  
樽屋藤次郎  
鈴木孫市  
熊井利左衛門  
中野五郎兵衛  
兼房甚次郎  
岩井四郎右衛門  
今井喜右衛門  
今井幸右衛門  
小藤権左衛門  
山本六右衛門  
小沢太郎兵衛  
小西喜左衛門

〔十〕<sup>(朱書)</sup>

御内寄合ニ而被仰渡候趣



一、町々ニ而薪其外商売物類往還積置候儀、先年高サ三尺ニ限り積置可申旨被仰渡有之候処、近キ頃者猥ニ相成、御定より高く積不届ニ候、自今御役人衆御廻し、三尺より高く積候歟御見届ケ被遊候ハ、其荷物御取上可被遊候間、御定より高く積不申候様、支配〳〵江入念急度可申渡旨被仰渡候事

一、附火致候者及見聞(ママ)候ハ、吟味之上召捕早々召連可罷出旨、先年被仰渡候得共、忝人茂不召捕候、畢竟不心掛之様相聞候間、同役相互ニ申合、向後随分心付怪敷者候ハ、召捕、早々御訴可申上旨被仰渡候事

一、存生之内相極候儀、町年寄方江遺跡帳ニ相附候様被仰渡有之候得共、近キ頃者忘却致候哉、遺跡帳ニも不相附候ニ付及出入候類在之候間、向後先年御触之通遺跡帳ニ相附可申候、若相背及出入候而不埒ニ候ハ、其家督御取上可被遊候間、此段入念支配〳〵江可申渡旨被仰渡候事

一、諸事御触事・入札事之類、輕キ事ニ而も裏々召仕等迄入念可申聞処、左も無之候哉、御番所ニ而御尋之刻、御触を不存者多候間、向後者諸事御触事を一々家主より店々江為申聞、致承知候段店々之者連判を取、名主江相納候様、家主江可申付旨被仰渡候事

享保十七年子五月十八日

〔朱書〕  
「十一」 乍恐以書付申上候

一、町々川岸并家前ニ商売之薪類積置候儀、先規より高サ三尺与申御定ニ候処、近頃者猥ニ致高積候ニ付、右御定より高積仕間敷旨此度尚又

被仰付、其外何ニ而茂商売物猥ニ高積不仕候様可申付旨被仰渡奉畏候、早速支配之者共江申渡候、右高積之儀者唯今迄も御定之高サより積間敷段々商売人共江申渡、商売人共茂相守候得共、荷物等多參候節者自然与高積ニも仕候、此以後猥ニ高積不仕候様可仕候得共、右之通荷物等多引請候節者場所差支、殊之外商売人共難儀可仕候、別而薪之外かさ高成商売物も御座候而旁以難儀仕候間、河岸通并町屋明地等ニ差置候儀、左之通御免被下候様仕度奉存候、尤出火等之節者随分心掛火移不申候様可申付候

一、河岸通差置候薪炭  
御下知此儀者兎角前々より御定之通高サ四尺より高積申間敷候 六尺

一、同樽木板類  
御下知書面之通ニ可致候 七尺

一、同藁并葭類  
前々より積候高サ四尺ニ而候間書面之通可致候 四尺

一、町屋明地之内右之類積置候儀  
御下知書面之通ニ可致候 七尺

一、家之前ニ右之類差置候儀  
御下知書面之通可致候、但随分往還江出張不申候様可致候 四尺

此外商売物右ニ准差置可申候

右之通奉窺候、家之前々ニ少々宛差置候商売物、往還之障ニ不罷成候様可申付候間、書面之通奉願上候、以上

子五月

年番  
名主共

〔朱書〕  
「十二」 草創名主申合併年番割

一、草分名主共之儀者、古來從 御入国之節御由緒有之候者共名主役被

仰付、代々相勤来候ニ付、町 御奉行様御役付之砌、惣名主御目見之節草分名主之分者格別ニ御目見仕、勿論見習ニ罷出候恹有之候得者父子一所ニ御目見仕来候、外同役之儀者見習子息有之候而も同日一所ニ御目見不被仰付候、此儀ハ其町々家持之内ニ而名主見立、町人共奉願候而相勤来候訳ニ而、父子一所ニ御目見不仕候、我々共之儀者先規より御由緒有之、代々名主役相勤来候草分分者共ニ而、町人願ニ被仰付候者共ニハ無之、代々倅名主役被為仰付候、依之今以倅召連同日御目見仕来候事

一、自今草分同役者一組ニ申合、年番を相立置、諸事不依何事ニ右年番方江申遣、年番より廻状ニ而組合中被為相知可申候、尤年番ニ相当候ハ、入念相勤可申候事

一、草分組合之内ニ不念成儀有之御咎被為 仰付候節、組合一同申合引請御訴訟ニ罷出遣可申候、勿論役儀江も相障候程之御咎有之候而も、組合何分ニも引請御請合申上、跡目相立候様御訴訟申上遣可申候事

一、草分組合之内ニ病身ニ候歟、又者大病ニ而相続人無之候ハ、組合之内向寄ニ而聞付次第、早速先達而御定組合同役中江懸相談、病中ニ立合遺言状取置引請世話致、相続人相立可申候、若当人相果候共組合相談を以如何共跡目相立可申候、或ハ身持不行跡ニ而家督相障候程之仁有之候共、組合聞付次第年番江申遣、年番より寄合を付致相談、御定組合同役江も為申合、異見加へ不相用候ハ、町年寄衆江も御内意申入、組合立合其仁為致隠居、跡目相立可申候、若不得心ニ候ハ、組合一同右之段 御奉行所江被申上候共、其節異儀申間敷候事

右之趣、此度草分名主不殘寄合得心之上相定候上者、毎年三月十一

日・九月十一日両度ニ組合不殘寄合可申候、尤年番方より廻状出候ハ、無不参急度寄合可申候、未々子孫ニ至候得而も中絶不仕候様可申合候、勿論組合之儀者少も無遠慮入念取計可申候、惣而不寄何事ニ組合一同之儀ニ候得者多分之相談を請違乱申間敷候、為後日組合連判仍如件

元文三戊午年三月廿一日

馬込勘解由  
吉沢主計  
高野新右衛門  
小宮善右衛門  
宮辺又四郎  
高木源兵衛  
矢部与兵衛  
佐柄木弥太郎  
益田文左衛門  
村田平右衛門  
千柄清右衛門  
川津十兵衛  
島田左内  
寺島茂左衛門  
岡崎十左衛門  
中野五郎兵衛  
兼房甚次郎  
内山惣十郎  
曾我小左衛門  
福島善兵衛  
星野又右衛門  
深野長兵衛  
富田平次郎  
田中平四郎  
田所平蔵  
大場惣十郎  
砥惣八郎

村松源六  
古川助左衛門  
貳拾九人

年番別

壹 馬込勘解由  
貳 貳 宮辺又四郎  
大場惣十郎  
川津十兵衛

四 高木源兵衛  
田所平藏  
村田平右衛門  
古川助左衛門

七 中野五郎兵衛  
内山惣十郎  
田中平四郎

八 兼房甚次郎  
深野長兵衛  
富田平次郎

九 矢部与兵衛  
島田左内  
寺島茂左衛門

五 岡崎十左衛門  
曾我小左衛門  
星野又右衛門

六 吉沢主計  
高野新右衛門  
小宮善右衛門  
千柄清右衛門

三 益田文左衛門  
福島善兵衛  
村松源六

此共金子之儀一切借用申間敷候、但組合用金二いたし置可申候、尤不参之方有之候ハ、年番より嚴敷催促致し集メ可申候、如斯相極候上者、末々ニ至迄中絶不仕候様堅申合置候、為後日仍如件

元文三年戊午三月

連判

〔本通〕  
十三

元文五年申正月七日兩御番所御年頭御目見之節、土佐守様御番所御腰掛茶屋之儀ニ付、左之通奈良屋江口上書差出

乍恐以口上書申上候

一、御番所年頭御礼拙者共罷出候節、御腰懸私共方より前々敷物持参仕候故、茶屋共江敷物代払候義無御座候、然ル処近年持参仕候敷物為敷申間敷旨申ニ付、式三年以来敷物代相応ニ遣し来候処、当月七日土佐守様江御目見ニ付名主共御腰懸ニ罷在候節、芝口組名主共敷物十枚かり候ニ付、代錢四百文茶屋喜兵衛江相渡申候処、不足之由申、其上祝儀をも可遣答之旨ねたり、右之代錢名主共江合力仕候段申、投付相返シ申候

一、人数貳拾九人  
但壹人分文金壹分宛

金高七両壹分也  
内 五両者用金ニ引

殘金貳両壹分者當時寄合会料ニ出ス

右者毎年三月十一日・九月十一日寄合相集メ、組合相談之上慥成者江預ケ置、惣組合之宛名ニ而証文取置可申候、縦如何様之儀御座候

一、去未正月御目見之節、壹番組名主共敷物借り申候処、代錢不仕候間、帰候而可相渡旨申候を承引不仕、持参仕候茶瓶差留置申候  
一、茶屋共平生不作法之仕方、其上高声仕物騒敷法外之仕形ニ候を、不埒成公事人共見習、不輕口論仕高声ニ雜談等仕候得者、御上を少茂不恐仕方ニ而、出入取扱等殊之外障リニ罷成迷惑仕候  
一、御腰掛之儀者元録二年巳四月初而出来、町人・名主共罷出候節、風雨之難儀御救之為被為 仰付候由ニ付難有奉存候、其節名主共御礼ニ

罷出候儀ニ御座候処、近來茶屋共之自由ニ支配仕候場所与存、常々拙者共者不及申上、町人數物代ねたり取御権威ケ間敷申掠、迷惑仕候得共、町人共者御腰懸ケ支配之者之様ニ心得違、茶屋共之心儘ニ随ひ差扣罷在候得共、別而近來茶屋共之内一兩人之不埒を以平生筋惡敷公事人共見習騷敷御座候、何卒自今御威光ケ間敷法外之仕方不仕候様被為 仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以上

元文五年申正月十三日

年番

名主共

〔朱書〕  
十四

一、大岡越前守様御番所江長谷川伊左衛門外御用ニ而罷出候節、被 仰渡候趣

御評定所・両御番所江公事訴訟ニ罷出候者、酒一切持参申間鋪候

一、湯茶・茶瓶・葉罐類持参可仕候、わくニ仕目立候様成茶弁当一切持参申間敷候

一、名主始五人組・家主・当人ニ至迄給物懷中仕出候様可仕候、別ニ荷物ニ仕重箱・提重等一切持参申間敷候

右之趣御奉行所又者町年寄衆より被仰遣候而者、相背候者有之節科人茂出来申候間、内証ニ而申合急度為相守可申候、酒給酔御腰掛ニ而高声仕口論仕出候事者、其町々名主未熟ニより事発り候間、随分堅可申合候、名主無之町者組合年番名主より可申合候、百性共公事ニ罷出候ハ、江戸宿江入念可申間候

右不洩様可申繼旨被 仰渡候、以上  
寛保元年酉十二月廿二日

右之通御年番帳面写

〔朱書〕  
十五 覚

万石以上

一、音信贈答嫁娶之規式饗応に儉約を可用旨前々より毎度被 仰出候、弥以右之趣急度被相守、猶又此度被 仰出候条々、左之通相心得可被申事

一、婦人之衣服近年結構ニ相見候、向後大名之妻子たりといふとも輕キ縫金絲等を用、猥に結構成衣類拵不申候様、殊ニ召仕之女ニ至てハ猶以上下之差別有之候様堅可被申付候、此度定直段町中江相触候間、其趣可被存候事

一、新規塗物之事、国持大名之調度たりとも輕キ梨地蒔絵等に過へからす、妻女之乗物・挟箱・長持等之類ハ黒塗蒔絵之紋より上之結構致すへからす、其余之輩者黒塗輕キ蒔絵或ハいつかけ等用ひ、乗物ハ黒塗のし金物又ハ天鷲絨包、挟箱・長持之類ハ黒塗或ハ溜塗を用へし、蒔絵之紋無用之事

但湯殿道具類ハ、木地溜塗之外一切致へからざる事

一、夜着・蒲団或ハ貝桶・挟箱之覆、唐織・金入之類不可用之、長持・屏風箱等之覆ハ絹布又者革を可被用事

一、婚姻之行列、供乗物拾挺に過へからざる事

- 一、祝儀之饗応弥近例ニ随ひ、其内菜数等省略有へし、常之参会者大身たりといふとも二汁六菜ニ過へからず、但香之物共ニ右之数たるへし、惣而吸物・肴ハ料理の菜数に准し減少すへき事
- 一、婚姻祝儀物之取かわし、近年礼物被 仰出候趣に准し可有斟酌事
- 右之品々万石以上其分限相应を計ひ可被用之候、以上

辰六月

(挟み込み題箋)

御伝馬方旧記

(朱書)  
□

覚

万石以下

- 一、音信贈答嫁娶之規式饗応等万事儉約を可用旨前々より被 仰出候、弥以右之趣急度被相守、猶又此度被仰出候条々、左之通相心得可被申事

- 一、婦人衣服之儀、此度万石以上江被 仰出候趣に准し、弥軽く可被相心得事

- 一、手道具たりとも黒塗輕キ蒔絵に過へからざる事

- 一、長持黒塗無用、溜塗木地を可被用事

- 一、妻女乗物、黒塗星金物或者青漆、こざ(胡座)包勿論とろめん包可被用之、真の黒塗并蒔絵のし金物、天鵝絨・純子(通)類にて包候儀可為無用、挟箱蒔絵紋致へからざる事

但乗物等新規ニ被拵候ハ、右之通たるへき事

- 一、夜着・蒲団并貝桶・挟箱之覆、縹子・純子・縹珍(通)以上之類可為無用事

- 一、長持・屏風箱等覆ハ布木綿たるへき事

- 一、婚姻之行例(通)供乗物三挺に過へからざる事

- 一、結納之儀、小袖一重・帶二筋・二種一荷を限るへき事

- 一、祝儀の取かわし、刀・脇差者代金五枚以下、巻物者紗綾・縹紗之内二三卷、樽代者金五百疋、銀壺枚に過へからざる事

- 一、饗応之儀、祝儀之節者二汁六菜を限り、常の参会にハ一汁四菜に過へからず、但香物共ニ右之数たるへし、惣而吸物・肴料理の菜数に准し省略ス

- 右者五千石以上、三千石或者千石・五百石夫々分限相应ヲ相考、輕重あるへし、猶又小身之輩に至てハ別而省略いたし可取計之候、以上

辰六月

(朱書)  
「十六」

上書本通旅籠町

- 一、絹紬之事 大工かねニ而丈ケ三丈四尺、幅壹尺三寸

- 一、布木綿之事 大工かねニ而丈ケ三丈四尺、幅壹尺三寸

- 右之通跡々より御定之所近年猥ニ有之間、向後此寸尺より不足ニ織出ニおゐてハ可為曲事、来年巳秋より改之、不足之分見出次第可取之旨可相触候間、可改其趣者也

- 右之趣被仰出候間町中家持者不及申、借屋・店借・旅人・汁付(マデ)迄申渡、

御定之尺寸より外少茂相背商売仕間敷旨急度為申聞、此旨相守可申候、若相背候ハ、如何様之曲事ニも可被仰聞候、為後日町中連判之手形差上申候、仍如件

寛文四年辰七月十二日

月行事  
同

四郎左衛門 利兵衛 太右衛門 六右衛門 善兵衛 勘兵衛 与三治郎 吉左衛門 小左衛門 四郎左衛門 助左衛門 権兵衛 弥兵衛 五左衛門 源右衛門 長兵衛 小左衛門 三郎兵衛 久左衛門 連左衛門 市左衛門 与次兵衛 彦左衛門 清左衛門 庄左衛門 利左衛門 清右衛門 兵衛庫

馬込勘解由殿

太郎左衛門 庄兵衛 庄右衛門 兵右衛門 五郎兵衛 七郎右衛門 長左衛門 善兵衛 周竹 徳左衛門

〔宋書〕  
「十七」 手形之事

一、私儀、去冬会津より曆買取御当地ニ而為売申候処、各仲ヶ間拾老人之内より見出御改被成、私家主七兵衛方江御届被成、売物之曆ともニ御預ケ被成、其上御 公儀様江御訴可被成段御断御座候ニ付、何とも迷惑仕、家主を以色々御詫言申候得者御承引被成、内々埒明被下忝奉存候、尤毎年御 公儀様より御触御座候処、ケ様成不屈仕候事誤入申候、然上者右之残曆急度相返シ可申候、自今以後右之様成儀仕候ハ、如何様共御申上可被成候、為後日家主加判を以証文仍如件

宝永三年戌三月十日

曆仲ヶ間拾老人衆中

元大坂町七兵衛店  
曆売主 甚右衛門  
右家主 七兵衛

〔朱書〕  
「十八」 差上申一札之事

一、新材木町小針和泉抱稻荷社地之内、今四時過薄灰毛猫損シ罷有候ニ付、和泉方より御訴申上候処、早速御檢使之上、町内右之毛色猫主有之哉与御吟味被仰渡候ニ付、町内召仕等迄吟味仕候処、右之毛色猫飼置候者無御座候、勿論見知候者無御座候、若右之猫主有之候を隠居、後日相知候ハ、何分之曲事ニも可被仰付候、仍如件

宝永四年亥二月廿七日

下船横町

八左衛門  
次郎兵衛

堀左京亮様御内

関軍右衛門殿  
小風伝兵衛殿

右之通委細被仰渡候ニ付、町内召仕迄吟味仕候処、右之毛色猫主曾而無御座候、若隠置後日相知候ハ、如何様ニも可被仰上候、仍如件

宝永四年亥二月廿七日

下船横町  
月行事

八左衛門  
次郎兵衛

馬込勘解由殿

〔朱書〕  
「十九」 覚

一、千石積壹艘  
勢州松崎浦  
伊右衛門  
此出銀七拾五匁

去戌年着船高  
一、合船数拾壹艘  
内着船之数  
一、六百石積壹艘  
同 人  
此出銀五拾八匁  
同国同所

一、三百石積壹艘  
同国同所  
權七郎  
此出銀三拾七匁

着船数三艘

此出銀合百七拾匁

残而八艘 是者未着船不仕候

右者、戌年中私方江參候船高之内、只今此三艘着船仕候ニ付書上申候、此外者着船次第書付差上可申候

堀留町問屋

紀伊国屋清右衛門

右之廻船唯今着船之数・石高書付差上候通相違無御座候、出銀之儀者被 仰付次第何時ニ而も急度取立差上可申候、右之外着船壹艘茂無御座候、尤此以後着船之分者度々ニ書付差上可申候、為後日家主・月行事・名主加判仕書付差上申候、以上

宝永四年亥四月

堀留町家持

清右衛門

問屋

八兵衛

同町家持

七兵衛

同

勘解由

町三人

年寄衆中

前書之通舟着船仕候ニ付、樽屋藤左衛門殿江帳面ニ認、書付差上申候、此上段々入津仕候ハ、早々御届可申上候、以上  
亥四月廿四日  
船問屋 清右衛門

馬込勘解由殿

月行事 八兵衛  
同 七兵衛

炮所持仕候者拙者共町内耆人茂無御座候ニ付、為御断如斯御座候、  
以上

享保四年亥正月十八日

〔朱書〕  
一、竹簀皮財布かつき候而古鉄せり壳罷出候者并仲買之者有之候ハ、  
書上可申候旨御触御座候、拙者共町内委細吟味仕候処、古鉄せり壳  
ニ出候者并仲買共耆人茂無御座候、為御断一札差上申候、以上  
享保三年戌閏十月五日

大伝馬町 十左衛門  
月行事

同塩町 利左衛門

堀留町 三郎兵衛

同 三郎兵衛

下船横町 平三郎

同 平三郎

伊勢町 宇兵衛

同 宇兵衛

通旅籠町 利左衛門

同 利左衛門

右御触正月十一日奈良屋江出ス

覚

一、町内浪人・医師并町人所持之鉄炮・商売鉄炮・預り鉄炮・質物鉄炮  
有之候ハ、吟味仕書上可申旨御触ニ付、拙者共町内委細吟味仕候  
処、右鉄炮所持仕候者耆人茂無御座候、為御断一札差上申候、以上

享保六年丑二月十日

大伝馬町 茂右衛門  
月行事  
同塩町 久左衛門  
通旅籠町 三左衛門  
堀留町 忠右衛門  
下船横町 平三郎  
伊七町 又左衛門

右一紙ニ認喜多村江差出

〔朱書〕  
「廿一」 覚

一、町中浪人・医師并町人所持鉄炮・商売鉄炮・預り鉄炮・質物鉄炮有  
之者、致吟味委細書付可申旨御触御座候ニ付、委細致吟味候所、鉄

大伝馬町 甚兵衛  
月行事  
同塩町 利左衛門  
通旅籠町 万右衛門  
堀留町 三郎兵衛  
同式丁目 市兵衛



右之通此方致奥印喜多村江出ス

伊勢町

兵 吉

同式丁目

茂兵衛

伊勢町

源右衛門

忠右衛門

〔朱書〕  
「廿二」 覚

一、桶師手間飯米共、代荅人ニ付新銀三匁五分宛

右之通当時直段ニ而御座候、以上

享保四年亥七月

大伝馬町善三郎店

桶師 伊左衛門

同 七兵衛

同 徳兵衛

通旅籠町六兵衛店

同 吉兵衛

同 忠三郎

右之通二冊相認奈良屋江相納

〔朱書〕  
「廿三」 覚

一、點塗方存候者御用之由御触御座候ニ付、私共町内委細吟味仕候処、

右點塗方存候者荅人茂無御座候、依之為御断一札差上申候、以上

大伝馬町

月行事 仁左衛門

同塩町

孫兵衛

通旅籠町

八兵衛

堀留壹丁目

右之通り五月十二日奈良屋江出ス

〔朱書〕  
「廿四」 覚

一、刀・脇差鍛冶有之候ハ、書上可申旨御触御座候ニ付、拙者共町内委

細吟味仕候得共、刀・脇差鍛冶荅人茂無御座候、為御断一札差上申

候、以上

子九月九日

大伝馬町

月行事

同塩町

九右衛門

通旅籠町

半左衛門

堀留壹丁目

久右衛門

同式丁目

弥兵衛

伊勢町

吉兵衛

忠兵衛

右者樽屋江出ス

〔朱書〕  
「廿五」

一、鳥目耆貫文

二、鳥目耆貫文

一、鳥目耆貫文

右之通来丑年

御城様江御年頭御礼ニ上り申候、以上

享保五年子十二月

町三人  
年寄衆中

大伝馬町

勘解由

同耆丁目南側東角

五郎兵衛

同式丁目北側東角

善三郎

大伝馬町

月行事

同

名主

吉左衛門

吉右衛門

勘解由

〔朱書〕  
「廿六」 御手判之儀ニ付被仰渡之事

一、享保六年丑五月廿一日 中山出雲守様御番所江惣名主被召呼、越前

守様御立合ニ而被仰渡候者、女手判町方之願致遅滞殊ニ物入等有之

達御聞候間、左様ニ無之様可仕旨被仰付候、若此以後御手判願当人

願出より 御奉行様迄申上候迄致延引、物入等有之由相聞候者名主

越度可被 仰渡候、以上

丑五月

〔朱書〕  
「廿七」 相州箱根御関所御定目写

定

一、往還之輩番所之前ニ而者笠・頭巾をぬき可通之事

一、乗物ニ而上下之人乗物之戸を可開事

附女乗物者番之輩差図ニ而女ニ見せ可通事

一、公家・門跡其外諸大名往還之刻者前広より其沙汰可有之間、不可及

改之、但不審之事あらハ可為各別事

右此旨可相守者也、仍執達如件

承応二年巳二月 奉行

関所女手形可書載之覚

縦令者女上下何人内

一、乗物 何挺

一、禪尼

是者能人の後室又者姉妹などの髪剃たるを云

一、尼

是者並通之女髪剃たるを云

関所女手形之内相改覚

一、髪切

是者髪之長短によらず不残揃切候ハ、髪切也、煩ぬけ髪はへ、不

残少切候様相見へ、又者中はさミ出来物の上等はさミ候ハ髪切ニ

而無之間向後不及改之

元禄十四年辛巳十一月朔日より御証文右之通出候旨被仰渡候

〔朱書〕  
「廿八」

一、小女

是者当歳よりふり袖之内者小女たるへし、併振袖之躰不審有之ハ可改之、但小女之内尼・かふる・髪切等者不及改之

一、乱心女

搦之囚人 但是者男女共

一、死骸男女共

是者紛無之死骸ハ不及改可通之、不慥死骸ハ可相改之  
右之通手形ニ可書載之、此外者惣旁不可及改之、但欠落とももの有之節者此方より其者之年頃様躰書注文可遣之間、隨書之趣可改之、但当月之日付ニ而来月晦日迄者可通之、從其日限及延引者不可相通者也

寛文十一年十一月廿二日

市 正  
長門守 何茂御印有  
右京大夫 右京亮

古キ御定目写

一、比丘尼

是者伊勢上人・善光寺上人等之弟子、又者能人之後室の召仕ニ有り、其外熊野比丘尼等也

一、髪切

是者髪長短によらず少切候共いづれも髪切也

此分古キ御定目也

京都より此方下り之節女手形写

女上下式人、從京都江戸迄御関所無相違可被相通候、是ハ彼地大伝馬町

式丁目馬込勘解由母并下女之由、当地高倉通蛸薬師下ル町伊勢屋清右衛門・同町年寄・五人組依断如此候、以上

年号月日 向井伊賀守 印判

今切女改中

〔朱書〕  
「廿九」 口上書を以申上候

一、土船商売願上候儀、拙者共御尋被遊候ニ付、先達而御返答書差上候処、又候此上手支無之様常直段下直ニ可仕旨御願申上候段、再三御尋御座候間、惣寄合仕遂吟味候処、願人共申上候通、土船之儀者一切外家業無御座候、茶船之儀者外之渡世多御座候ニ付、被仰付候得而別而茶船之障ニ罷成申間敷与奉存候、常々之儀者土船計ニ候而も手支申間敷与奉存候得共、若火事等之砌所々普請等余多有之節者、土船計ニ限候得者何程定直段ニ可仕与願候而も差支、求候者相對ニ仕直段増候方江遣候様仕候ハ、却而手支ニ可成与奉存候、只今迄之通ニ被成置候ハ、手支申間敷与奉存候、以上

享保五年

子七月

年番  
名主共

右両様書上之儀、樽屋殿掛りニ而年番名主被招呼被仰渡候ニ付、惣寄合之上年番より右之通返答致候事

〔朱書〕  
「三十」

川船御役所より船持共人別連判名主奥判之儀ニ而、文言之儀ニ付本所近江屋喜三郎方ニ而寄合之上、窺書奈良屋殿江差出候

へハ、則 出雲守様江被仰上候上、御意被成候者御勘定御奉

行様江右之訳可被仰出旨、市右衛門殿被申渡候、伺書左之通

一、此度川船御役所より町々船役船持人別帳を認、奥書之下二名主判形仕可遣旨申来候、前方茂船数書上者川船御役所江可遣旨御支配より被仰付遣候儀御座候得者、帳面判形之儀違背仕候儀ハ無御座候、此度者御支配より被仰付も無御座、其上奥書文言を相考申候処、前々船請御座候而御年貢御役銀被集候節、舟主其節調兼候得ハ取替候而上納仕候由、近頃者舟請相止候ニ付、上納之節及延引申候者舟請之様ニ罷成、名主取替候而も可済筈之様ニ罷成候而者迷惑奉存候、船数・船持人別相違無御座候与計仕候而も、御年貢滞候得ハ川舟御役所より書付参候得者、前々より詮議仕船主・家主江申渡、上納為仕来候儀ニ御座候、此度之帳面船数少キ町者当月三日、舟数多町者七日迄御役所江可遣旨申来候、奥書文言之儀、川舟御役所より来候帳面之写、奉願候品付紙仕差上申候、付紙之通奉願候、以上

享保六年丑閏七月

船持御座候町々

名主共

川舟御役所より御帳面写

何町名主誰

此所ヶ様ニ仕度候何町

付札

御印鑑

川船御役所御印鑑  
永代帳ニ張付有之

一、長錢何百文 茶船

元請何屋誰

誰店誰印

一、同断

同断誰印

一、同断

同断誰印

付札

△ 右拙者支配舟持吟味仕候処相違無御座候、御年貢御役銀無滯上納為致可申候、以上

享保六年丑七月

名主 誰印

此所ヶ様ニ仕度候

△

右拙者支配舟持并舟数之儀、家主為立合吟味仕候処相違無御座候、御年貢御役銀無滯上納可仕旨申渡候

右之通相認奈良屋殿江被差出候由、村田平右衛門殿より申繼ニ付写置候、閏七月十日年番より廻状ニ而、右川舟御役所帳面之儀、窺之通文言ニ而此方ニ而右御役所江納可申旨、奈良屋市右衛門殿より被仰渡候由申次ニ付、則右之通帳面相認、竹蔵御役所江差出申候、右帳面扣別紙有之候得共爰ニ写置

伊勢町

一、長錢貳百五拾文

元請河村屋久右衛門

三郎左衛門店

佐兵衛

一、同 三百文

元請三河屋善兵衛

忠右衛門店

太郎兵衛

一、同 四百文

元請万屋清兵衛

同人店

久右衛門

一、同 貳百五拾文

元請川村屋茂右衛門

家主

九兵衛

一、同 三百文

元請佃屋茂右衛門

三郎左衛門店

八郎兵衛

一、同 百五拾文

元請小島屋久四郎

同人店

弥五兵衛

一、同 三百文

元請深川屋仁右衛門

同人店

七兵衛

一、同 三百文

元請川村屋久右衛門

同人店

弥五兵衛

一、同 式百五拾文

元請風藤屋権兵衛

八右衛門店

弥兵衛

右拙者支配船持并船數之儀、家主為立合吟味仕候処相違無御座候、御年貢御役銀無滯上納可仕旨申渡候、以上

享保六年丑閏七月十二日

名主 勘解由

右之外ニ右御役所より参候帳面ニ忠兵衛与申名無之、高瀬舟壹艘書付有之候、名書之下ニ下ケ札、此忠兵衛所持之高瀬舟、去子十二月九日御願申解舟ニ仕候、則其節御役所江証文差上置申候、左兵衛儀も式艘書出有之ニ付、壹艘之下ニ下ケ札

此佐兵衛御書面茶船式艘之内壹艘所持致罷在候、今壹艘之儀者去子十月四日小網町三丁目三右衛門店庄左衛門方江壳渡申候、尤其節御役所江御届申上候由申候、残而壹艘所持仕罷在候、右之通御役所より参り候帳面ニ張紙いたし、閏七月十二日伊せ町忠助持参仕候

(朱書)  
「三十一」

駕籠願免許札覚

(控帳のみ)



腰痛養生之内  
辻駕籠免許

大伝馬町

名主 勘解由

申三十八歳

右札裏ニ享保元年申十二月五日

以書付申上候

一、私儀来申年五十歳ニ罷成候処、持病疝氣御座候而腰痛差発候砌者歩行

計ニ而者御用難相勤迷惑仕候、依之御定之駕籠 御免被遊被下候様奉願候、以上

未十二月

大伝馬町

名主 勘解由

差上申手形之事

一、通旅籠町家持丹波屋五郎兵衛来酉年六十歳ニ罷成候、疝氣之煩御座候而歩行不自由ニ御座候故、駕籠御訴訟申上候ニ付吟味仕候所、書上候年并煩誓詞を以申上候通少茂偽無御座候、為後日名主・五人組加判仕一札差上申候、仍如件

享保十三年申十二月

丹波屋五郎兵衛

五人組

万右衛門

同

五左衛門

同

久右衛門

名主

勘解由

町三人

年寄衆中

(朱書)  
「三十式」

通旅籠町書役惣助・半兵衛兩人共ニ元文六年酉二月廿日町内書役取上ケ候旨、月行事宇兵衛・市右衛門申来候、然処寛保元年酉年六月十八日惣助・半兵衛共帰役為致度旨、左之書付持参致候、月行事太兵衛・伊八則此方樽屋江相伺候処、追而御伺之上可被仰渡旨、同六月廿八日樽屋より御配府ニ而翌廿九日我等罷出候処、御構無之勝手次第可申付旨被仰渡候、則其段月行事江申渡、右書付并とみ持場より之

手紙共ニ此方江請取、外ニ書役兩人証文共

以書付申上候

一、町内書役惣助・半兵衛儀当三月不勤ニ付暇遣置候、然ル処右兩人町内江度々相詫申候、右兩人之儀ニ付、当春及出入候而唯今迄打捨置申候処、唯今迄日々町内江相廻り相詫申候、依之町中不殘為致帰参度相談相極申候、此段先達而も申上候得者、右之通兩人之儀ニ付及出入候間、外を抱候様被仰渡候得共、右兩人暇遣候而者及鶴命致難儀候間、相帰書役為致度奉存候、外ニ町中相障儀曾而無御座候、以上

寛保元年酉六月

団 六  
卯 兵衛  
市右衛門  
久右衛門  
伊 兵衛  
又 兵衛  
茂 兵衛  
彦 七  
八 兵衛  
德 兵衛  
七郎兵衛  
佐平次  
小右衛門  
平四郎  
平右衛門  
六 兵衛  
清右衛門  
与 八  
清 兵衛  
万右衛門  
五左衛門

馬込勘解由殿

以書付御願申上候

一、通旅籠町小右衛門倅惣助申上候、私儀去々未四月十五日町内江給金一ヶ月ニ式分式朱宛ニ相定書役奉公ニ相済申候、然ル処同町家主小右衛門方江養子ニ罷越呉候様、町中家主共六人達而申候故、忝町中家主中之世話之儀故、無是非小右衛門方江同年未六月十三日養子罷越、右小右衛門方江罷越候得者、新鳥越町・三谷町・今戸町・橋場町・通り新町五ヶ所之御配府御触次之儀、三代以前小右衛門御三ヶ所御役所様江御願申上、御吟味之上触次仕候様被仰付、御太切ニ仕、是迄無恙相務来難有奉存候、然処当酉正月、何之無故茂町内不相応成由ニ而暇差出申候、私儀者町内書役之儀ニ御座候得者、何之申分無御座、早速役儀相上ヶ小右衛門方ニ罷在候、此度書役取上候ニ付、触次之儀も町内江取上ヶ、新規ニ相抱候書役ニ申付候由、小右衛門方ニ而写次者難成由、色々我儘を申為取次不申候、拙者儀者町内書役之儀ニ御座候得者、勝手次第之儀ニ御座候得共、先年御吟味之上小右衛門江被仰付候儀を、御訴も不申上、我儘ニ御写次迄取上可申筋有御座間敷与乍恐奉存候、殊ニ五ヶ町名主中承合候処、五ヶ町之儀者唯今迄之通小右衛門方ニ而取次被申候様被申候、尤於私ニ町内引

又左衛門  
太右衛門  
伊 八  
太 兵衛  
忠 兵衛  
善 兵衛

負等町儀ニ対不調法無御座候、併私町内江召抱候砌約束等も仕候ハ、格別、私儀町内之世話ニ而養子ニ罷越、小右衛門方ニ而仕来候御触次迄相潰可申工ミ、町内与馴合小右衛門方江罷越、御触次迄町内江為取上候哉与養父小右衛門相積候儀も迷惑至極仕候、殊ニ小右衛門儀、小間之家守り役相勤唯今迄務来候御触次迄、私故ニ相離申候而ハ及謁命申候、依之御慈悲ニ小右衛門方ニ而唯今迄之通御写次仕候様、御役所様御威光を以町内月行事被召出被為、仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以上

寛保元年酉三月

町三人

御年寄衆中様

通旅籠町家主  
小右衛門悴

惣助

差上申一札之事

一、私共儀、通旅籠町ニ而代々書役相勤罷在候処、当春中町内家持衆より日頃不勤之由ニ而兩人共御暇被下迷惑仕候処、其後私共儀より起り対御手前様江及出入候得共、其儀共事鎮り申候、然ル処私共儀御暇被下候以後至極困窮仕候ニ付、段々御託申上候得者、御町内衆中一同御手前様江願書を以帰役之儀御願被下候ニ付、御問屈之上御了簡を以是迄之不埒之儀者御免被下、此度帰役被仰付、御厚情之程難有奉存候、然上者向後平生之勤方者不及申、御玄関向無怠随分大切ニ相勤、御町内衆中江慮外過言等無之様相慎、入念相勤候様被仰渡奉畏候、為後日証文仍如件

寛保元年酉七月

書役 惣助  
同 半兵衛

〔朱書〕  
三十三 乍恐以書付奉願上候

一、鍛冶町壱丁目伝左衛門店半兵衛・六兵衛申上候、利根川筋閑宿より下津々浦々高瀬船・五太力船江戸着仕候節戻り船賃取申度、船頭・乗手共下り荷物聞調申ニ付、余日逗留仕物入多、別而舟主共費御座候而、其上ニ而も荷物不相調空舟ニ而下り候事度々御座候ニ付、依之私共御願申上候者、高瀬舟積下り荷物之間屋私共江被仰付被下候様ニ奉願上候、下り荷物聞屋被仰付被下置候ハ、於御当地場所見合ニ三ヶ所問屋相立、下り荷物聞立請取置最寄ノ二舟荷物作配仕為積可申候、左候得者船頭・舟主共殊之外勝手ニ罷成候事

一、高瀬舟入津仕候而も所々之川々ニ懸り居申候得者、勝手不存候諸商売、御当地ニ而荷物買出仕候田舎旅人等、売物相調舟積仕度存候而も、其最寄ノ之戻船を不存者所々相尋候間、不勝手ニ御座候処、高瀬舟問屋御座候得者聞合舟積仕候ニ付、是又勝手ニ罷成候事

一、御大名様・御旗本様方御下シ荷物御座候節、最寄之舟共何方ニ居候哉与御尋被遊候ニも御人夫相懸り、其上ニ而難相知、御問ニ合不申儀も御座候由承知仕候、此儀問屋御座候得者早速相知申候間、御勝手ニも罷成可申様奉存候、且又御当地町々品川・芝・本郷辺山ノ手より積下シ申度荷物御座候而も、舟場遠方故勝手難相知節、舟問屋当テ御座候得者は又荷元勝手ニ罷成候御事

一、右之下り荷物問屋私共江被為、仰付被下置候ハ、荷物作配仕舟数ニ振分ケ積セ申候得者、少々宛積申候而も大勢之船頭共戻運賃取申

候得ハ、舟頭共之勝手ニ罷成候、尤唯今迄高瀬船問屋与申者無御座候、勿論下り荷物者少々之事ニ御座候間、大方者船頭・乗手共戻り舟賃を小遣・諸人用ニ仕候様奉存候、依之少宛も戻運賃取申候得ハ、船頭共別而勝手ニ罷成候、且又荷物之有無も相知候得者、堀内ニ永逗留も不仕候而、上下之船往来度々仕候得者舟主も勝手ニ罷成候、其上川筋より積出し候売物之入津戻荷物等田舎売物迄、市日之間ニ合申候得ハ、諸商売人・旅人共勝手ニ相成候、私共問屋被為 仰付相立候而、積荷御座候節者其向寄之船頭呼上ケ荷元へ引合、舟賃相對為致申候、私共口錢之儀者舟賃高ニ而拾歩一之積を以請取可申候、過分之口錢堅取申間敷候、其上所々之舟主・舟頭之名前私共方之帳面ニ留置世話仕候得者、双方之勝手ニ罷成候事

一、右高瀬船下り荷物問屋私共江被為仰付被下置候ハ、為御冥加之本所堅川通五ツ目・六ツ目四ヶ所之御 上り場御修復御普請、私共自分之物入を以、何時成共御差図之通仕差上可申候、御慈悲被為 聞召訳願之通被為 仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以上

元文五年庚申四月廿六日

神田鍛冶町壱丁目伝左衛門店

願人 半兵衛

同 六兵衛

樽屋御役所様

右之通相願候ニ付、返答可致旨年番江被仰渡候ニ付左之通

利根川関宿より下津々浦々高瀬舟・五太力舟帰帆荷物問屋之儀、

鍛冶町半兵衛・六兵衛御願申上候ニ付障之有無御尋御座候

一、奥州帰帆積問屋之者江相尋申候処、別紙願書差出申候ニ付差上申候、然ル処願人共江此度被仰付候而者、只今迄之積問屋大勢家業ニ相離難儀可仕候、殊ニ大勢ニ而仕来候処願人計ニ而作配仕候ハ、手狭ニ罷成、諸問屋者不及申田舎商人迄不勝手ニ可罷成与奉存候、去ル午五月願人有之、障之儀申上候得者御取上無御座候、以上

申五月

年番

名主共

乍恐以書付申上候

一、奥州船問屋組合之者申上候、此度神田鍛冶町壱丁目伝左衛門店半兵衛・六兵衛御願申上候ニ付、相障候儀も有之哉与御尋被遊候ニ付左ニ申上候

一、奥州船問屋与申者御当地ニ無御座候由申上候段、何共難心得奉存候、右願人者奥州筋様子存不申者与乍恐奉存候、私共古来より奥州舟問屋仕、近在者不及申信州・奥州迄旅人・荷物為積登渡世致シ罷在候処、船頭共荷物聞立、御当地ニ逗留仕候与申上候段、船頭者不及申諸問屋共私共問屋仕候儀存不申者者忝人も無御座候、奥州船頭入津之節者早速私共方江罷越申候御儀ニ御座候、尤帰帆荷物船賃之儀者、何方江積送り申候儀も相究置申候、荷物積立早速出船為致申候ニ付間取申儀無御座候、殊御屋敷様御荷物積送り候儀も船居所御存無之、御不自由之由申上候段、何れ之御大名様御知行所より御手舟・商舟共当着仕候節、私共方江參候得ハ御下シ御荷物等御差支是迄無御座候者、右両人之者共御願申上候段奉承知候、願人之者共江被為 仰付候而者、私共古来より仕来候船問屋相止メ、大勢之者共乍恐難儀至極ニ



奉存候間、右之段被為聞召詔御慈悲奉願上候、以上

元文五年申五月

いせ町喜兵衛店  
堀江町二丁目庄兵衛店  
与兵衛  
小舟町三丁目七左衛門店  
甚右衛門  
堀江町二丁目家主  
庄兵衛  
堀江町三丁目平七店  
治右衛門  
同町家主  
市兵衛  
葺屋町三郎兵衛店  
六兵衛  
小網町横町家主  
庄兵衛  
同町壺丁目源助店  
治郎兵衛  
同町家主  
七郎兵衛  
同町次兵衛店  
權兵衛  
同式丁目又三郎店  
又兵衛  
同町九兵衛店  
仁右衛門  
同町家主  
五兵衛  
同町半右衛門店  
新右衛門  
同町家主  
八郎兵衛  
同町家主

弥右衛門  
同町家主  
庄左衛門  
同町治助店  
伝兵衛  
同三丁目次郎兵衛店  
喜右衛門  
同町家主  
善兵衛  
同町伊左衛門店  
利兵衛  
同町五兵衛店  
門兵衛  
同町兵右衛門店  
門兵衛  
同町家主  
三右衛門  
本材木町式丁目家主  
伝兵衛

〔朱書〕  
「三十四」 乍恐以書付奉願上候

一、芝口金六町源兵衛店仁平次・同人店重兵衛・同町三郎兵衛店善次郎、  
同町家持三郎兵衛証人致、右三人之者共申上候、従先規古鉄買之者  
共者先年下ケ札被為仰付、銘々頂戴仕、其外無札之分ハ古鉄屋仲ケ  
間与申候而完買仕来申候

一、紛失物御触御返答申上候節者、仲ケ間其組合切行事方江押切帳取寄せ  
改申候而印形仕、其上町行事立合被致吟味、則加判仕差上被申候、  
且又右御札申請候者共之内ニモ、御札紛失仕候者とも問々御座候、  
其上近年者無札之者共数多古鉄買仕申候ニ付、仲ケ間ニ而其者相改申

候得者彼是難決申及口論申候ニ付、畢竟從御 公儀様被為仰付置候  
元締役ニ而も無御座候ニ付、遮而遂吟味申候事も難成、其分ニ打過申  
候、就夫御触之時節も双方無残所様ニ相改申候手茂届不被申事ニ奉  
存候ニ付、一入不被詳成様ニ忝恐奉存候、依之此度拙者共奉願上候  
者何方成共会所相立、手代等召抱、御町并端々迄古鉄屋仲ヶ間附ニ  
古鉄買之者共江無残所忝ヶ月式三度宛相廻り、惣躰買物等請払諸帳  
面共ニ相改、胡乱ヶ間敷物買方吟味仕、其上御触之節者猶又拙者共  
手代召連所々手訳ヶ仕、其組々之行事為立合、其店々有物等吟味仕、  
并御日切前後元買帳等迄相改委細詮儀仕、押切帳印形拙者共方より  
古鉄商売人共方江相渡置、猶以御触之節々も相改、無相違所組合行  
事ニ印形為致、拙者共も奥判仕度奉存候、然上者被下置候古鉄買御  
札持計吟味仕候而者、古鉄屋仲ヶ間与申無札之分詮儀相殘申候様奉  
存候、尤御触之節者古鉄屋仲ヶ間ニ而も致吟味御返答可申上候得共、  
今度拙者共奉願上候者無札之者よりハ拙者共扣帳面ニ印形取置、双  
方共一同之吟味ニ仕度奉存候、就夫拙者共儀右惣代ニ被為 仰付被  
下置候様忝恐奉願上候

一、前々より御掟ニも、若出火御座候而も三日過申候迄者古鉄買等其場  
所江入込申間敷旨被為 仰付置候所ニ、近年者出火之時節未消仕廻  
不申所江も古鉄買之者共大勢入込、其上御札忝枚下ヶ申候者ニ三四  
人宛付組合罷出申、其外他商売之者共迄其節ハ入込申候而古鉄買取  
申候様奉存候、此等之事も拙者共惣代被為 仰付被下置候ハ、出  
火之節者何方江も手代召連相詰申候而右之類吟味仕候ハ、向後猥  
ヶ間敷儀御座有間敷忝恐奉存候

一、右惣代役相勤申上候ニ付而者、何方ニ成共会所相建、手代等召抱、每

月所々無残所吟味仕候、左候得者手代等扶持方給金并会所宿賃其外  
諸色入用等御座候ニ付、右古鉄商売仲ヶ間忝ヶ月ニ役料銀  
少々宛差出申候様、被為 仰付被下置候様忝恐奉願上候

一、為御冥加代御作事御小屋江忝ヶ月ニ釘式万五千本宛上納可仕候、此  
訳、差詰忝寸釘式万本、同忝寸五分釘六千本、同忝寸釘四千本、同  
忝寸五分釘三千本、同忝寸釘式千本、都合忝ヶ年ニ三拾万本上納可  
仕忝恐奉願上候、且又御触書等之詮儀仕方有増愚意ニ考弁仕、別紙  
差上申候

右之趣忝恐被為 聞召分、御慈悲を以古鉄商売所々無残所委細吟味  
仕相改申候元締役被為 仰付被下置候ハ、難有奉存候、以上

元文五年申十月十日

芝口金六町源兵衛店  
願人 仁平次

同町同人店

同 重兵衛

同町三郎兵衛店

同 善次郎

同町

証人 三郎兵衛

御奉行所様

忝恐別紙口上書を以申上候

一、本紙願書申上候、古鉄買之者共押切帳面行事方ニ而相改候得者、忝  
ヶ月ニ漸々買高金忝式分を限り相見へ申候、勿論大廻し仕候買出之  
者共一度ニ金忝式両程も買方致候事も御座候、然共身上向よりも帳  
面少く相見へ申候、然上者身一分之渡世ニ而も店賃・諸色共相考申候  
得者、中々日用難過事ニ奉存候、其上妻子等御座候ニ付而者猶以右

之金高二而渡世仕申候儀難心得事ニ奉存候、然共右之者共唯今迄胡乱ケ間敷儀仕候事見出聞届申候儀無御座候ニ付、決而者難申上候得共、願之通被為 仰付被下置候ハ、詮儀之方便可有御座候儀ニ奉存候

一、今度乍恐拙者共愚意奉考弁申候者、右之者共所々無残所毎日相廻り古鉄買出仕候ニ付、紛失物等品書御渡被下置候ハ、則委細書付仕候而、銘々相渡何方ニ而成共御触書之品々之内別而大小并小道具類似寄候物、先方より売渡可申筋か又者實物等ニ相頼申候儀も可有之候ニ付、左候節者則買取可申訳ニ相談仕、少々之手付金相渡則預り書致、其腰物并小道具類ニ而も拙者共方江持参申候ハ、得与相改申候而、則先方買元等委細を吟味見届候ハ、御触之筋も相知可申事ニ奉存候、左候ハ、右手付金者猶以見出候者江者私共方より相応ニ褒美金遣シ可申候、尤右見出候者共儀者一向乍恐無御沙汰被為遊被下候様奉頼上候、無左候而者此者共及御詮儀申候ハ、重而之手寄りニ仕候者有御座間敷与奉存候

一、前以御触書之品奉拝見候処、多分者大小腰物類并小形小刀・目貫・縁類・鰐・笄ニ而御座候、此類之儀者何者隠売仕候而も御尋之品書等委細及承候ニ付、隠蜜ニ右之道具之模様并金色等迄仕直申候而、蜜々ニ売買等仕申候哉ニ奉存候、殊ニ目貫・小柄等ニ不限金銀之道具向者目貫等ニも仕候儀も御座候ニ付、潰シニも仕候事ニ可有御座候ニ奉存候、左候ハ、右之品替替等仕候者共者、腰物等惣而拵立候者共并飭金物師等方江相頼、致直申候事与推察仕候、然上者惣而腰物等拵立申候諸職人并小道具屋・飭金物師迄、請払之帳面等其外御吟味可被為 仰付御筋も可有御座御事、乍恐奉存上候、右之趣乍恐御考弁被

為遊被下置候様奉頼上候、如斯所々共ニ無残所其筋之詮儀仕申候ハ、此上隠売等仕申候事も難致儀ニも可罷成哉と乍恐愚意申上候、以上

元文五年申十月十日

芝金六町源兵衛店

願人 仁平次

同町同人店

同 重兵衛

同町三郎兵衛店

同 善次郎

同町家持

証人 三郎兵衛

### 御奉行所様

芝口金六町源兵衛店仁平次・同店重兵衛・同町三郎兵衛店善次郎・同町三郎兵衛古鉄改惣代奉頼候ニ付、障之儀御尋被遊候間左ニ申上候

一、紛失御尋物御座候節、古鉄買并無札之者改等行届不申儀有之由申、此度右之者奉願惣代被仰付候ハ、御忠節をも仕、其者共会所・手代等入用為助成、古鉄買共より毎月役銀取立可申儀申上候、古鉄買共者貧窮之者ニ御座候処、毎月役銀被取立候ハ、難儀仕、役銀不納仕候ハ、公事合ニも相成、殊ニ御忠節を申立末々ニハ自然与御権威ケ間敷罷成候ハ、大勢之者困窮ニ至迷惑可仕与奉存候、其上小道具屋・飭金具師職人迄改可申旨申上候得共、只今迄紛失御触御座候得者月行事共御触書写取、組合商売人共者不及申上町内家主・地借・店借不残吟味仕候故、外商売職人迄吟味洩候儀無御座候処、惣代之吟味請候ハ、商売障候筋も出来仕候ハ、又大勢難儀可仕与奉存候、

尤前々被仰付候通り札不持者相互ニ相改、且又出火有之節者火事場江不罷出候様、此上家主共より急度申渡候様可仕候間、只今迄之

通御差置被遊候様仕度奉存候

右之通御尋ニ付乍恐以書付存寄申上候、以上

申十月廿五日

年番  
名主共

〔朱書〕  
「三十五」

一、今日樽屋殿江室町助右衛門・桶町藤五郎・西紺屋町六右衛門・竹川町七左衛門・銀座町佐兵衛・本材木町治右衛門・同新助・南銀町孫市・神田佐久間町仁左衛門・連雀町小十郎・神田旅籠町善左衛門、右年番被招呼被仰渡候趣

毎年町中所々ニ明地・明店年々相増候、其上何ニ而も御尋之節者、町々明地・明店多候由申ニ付、人別与御引合被成候得者、明地・明店有之与違、差而人数之減茂不相見候、其上当年ニ至候而ハ惣高ニ而三千茂相増、丑ノ年始而書上候時分より替儀も無之候、如何様之訳ニ而有之候哉、明地・明店多候ハ、人数茂相応ニ減可申処、左様無之段御不審ニ被思召候、此段名主共江御尋被遊候間、存寄之趣可申上之旨被仰渡候

一、紛失物組合毎月御届之儀殊之外致混乱候間、向後月々相届不申候共外ニ致方有之候哉、寄々致了簡見候様被仰渡候、尤是者御急候訳ニ而ハ無之由被仰渡候事

右人別高之儀御不審ニ付、五月廿五日樽屋殿江南北年番共より

書上候返答書左之通

町々明地・明店多有之候得共、当春之人別書上高去ル丑ノ年以後書上高より相増候儀者如何様之訳ニ而相増候哉与御尋ニ付申上候

一、町々明地・明店所々ニ有之候儀者、近年不商ニ付地代・店賃等太儀ニ奉存、又者修復等之儀相考住居をも縮メ候類有之、或者裏々之者なとハ店仕廻出居衆ニ罷成商売仕候者も有之、明地・明店所々ニ有之哉与奉存候

一、当春之人別書上高相増候儀者、去年中在々水出、所々田舎辺困窮仕候而、御当地江奉公ニ罷出候者も可有御座候処、当春者惣躰奉公人片付兼候ニ付、田舎より罷出候もの共親類亦者好身之もの方江掛り居、或者出居衆等ニ罷成持候ものも有之、夫故自然与人数相増候儀茂可有御座哉与奉存候

右之通御尋ニ付存寄之趣書付差上申候、以上

西五月

南北年番  
名主共

右者寛保元酉年樽屋江差出ス

〔朱書〕  
「三十六」

寛保元年酉三月廿二日奈良屋ニ而御吟味ニ付差出候返答書左之通

一、近年油高直ニ付御吟味之節問屋共申上候者、御当地ニ而素人仕入油者不及申仲買仕入油共、近頃者猥ニ罷成、問屋方江入津不相知商売仕候

者間々有之候、壹ヶ年ニハ凡拾貳三万樽程も入津仕候得共、問屋方江者漸々四五万樽ならてハ下り不申、問屋方ニ樽類不足仕候砌者切与申高直ニ罷成候、向後者素人仕入油者不及申仲買仕入油共問屋方江相渡、問屋方ニ而商売仕候得者入津之樽数も相知、尤問屋方ニ樽数数多有之候得者油高直ニも相成申間敷候、自今右之通被為 仰付候ハ、問屋共方ニ而式千樽程も平日囲置、船間ニ而油高直ニも可相成節元直段売出可申候、左候ハ、猶々高直ニも相成申間敷旨申上候故、私共存寄御尋ニ付書付を以申上候

一、右問屋共申上候通被仰付候ハ、問屋共方油多罷成候ニ付、高直ニ相成候儀ハ御座有間敷候得共、近年問屋共方江送り荷物過半無数仲買共又者素人直仕入油ハ多御座候、惣而素人油直買致候儀者仲買之者之名前ニ而売買仕候故、御当地下り油多少ノ儀者都而油商人者能存罷在候得共、問屋共方ニ荷物無数御座候而も御当地油多有之候得者油切与申ニ而ハ無之、左候得ハ相場之障ニ罷成申間敷哉与奉存候

一、問屋方江油差出、外ニ而売買不罷成候ハ、素人并仲買之者仕入仕候而も一分之存寄ニ而勝手ニ売買仕候儀相成不申、問屋取捌ニ罷成候而者、直仕入仕候者自然与無数御当地入津樽数減シ可申哉与奉存候

右之通御尋ニ付存寄申上候得共、何れ之筋ニ而直ニ可罷成候哉、其段難計奉存候、以上

酉三月

大伝馬町

名主 勘解由

平右衛門町

同 平右衛門

鎌倉町

同 平次郎

新肴町

右之通奈良屋江差出

同 伊左衛門

南銀町

同 孫 市

通巷丁目

同 藤次郎

油問屋共願之儀、先達而私共存寄御尋之節、油売買之儀素人致直買候儀者不罷成、仲買之者名前ニ而売買仕来候得共、御当地ニ而誰方ニ油有之儀者商人共能存知罷在候ニ付、問屋共方ニ荷物少く御座候而も油切レ与申儀者御座有間敷旨申上候得ハ、正統ニ致売買候ハ、相場ニ相障儀者有之間敷候得共、直段之上りを相待油囲置候者も可有之候、左候得者問屋方荷物少く候得而者相場之障ニ茂可罷成候、勿論御当地年々油入用高大坂表商売人相心得仕込可申候間、仕入候者相止候而者外江遣候儀難成、御当地問屋方江不残送り候ハ、入津高者減申間敷哉、今一応存知寄可申上旨御尋ニ付、以書付申上候

一、素人并仲買之者買置仕、上りを相考売買仕候者も可有御座候得共、直仕入仕候儀都而相止候ハ、入津之油少く罷成可申哉与奉存候、油之儀者大坂表より多く下り候得共、其外諸国よりも御当地江差出候油も御坐候由、惣而直仕入不罷成候ハ、油何程ニ而も不残問屋共方江引請可申儀ニ御座候、左候ハ、問屋分油多く自然与相場下直ニ罷成可申候得共、大分之荷物問屋計ニ而引請兼差支ニも可罷成候哉、其上大坂表并諸国ニ而も直仕入相止候ハ、油仕込迄少く、御当地入津高減し却而高直ニ相成候儀も可有御座哉与奉存候

一、御当地ニ而年々相捌候油高、大坂ニ而相心得仕込可申段御尋ニ御座候、此段も仕入注文申遣代金茂現金ニ致、或者仕入申遣候者身上向をも存、油差下申候ニ付代金差支無之、何程成共申遣し次第油絞候而差下申候由、問屋計与相極候ハ、見合油仕込可申与奉存候、勿論菜種之儀も囲置ニ而も損不申候間、諸国ニ而買置候者御座候様及承申候右之通御尋ニ付存知寄之趣申上候、何れ之方ニ而下直ニ相成可申哉其段難計奉存候、以上

寛保元年酉四月廿三日

名前人数

前二同

右之通奈良屋江差出ス

〔朱書〕  
「三十七」 以書付申上候

一、紛失物御触度々有之候得共其品出候儀者稀ニ付、御触行届不申候所も可有之哉、御代官所端々迄御触可被遊哉、并田舎江紛失物遣候哉、且又染直等仕候紺屋も可有之候、相考御返答可申上旨被仰付候ニ付左ニ申上候

一、近在御代官所商売人御座候ニ付、自今御触可被遣儀可然儀ニ奉存候  
一、染直物おもに仕候紺屋御座候様及承申候、此類組合相極、染直之模様等具ニ帳面ニ記置、只今迄之組合商売人同前ニいたし置吟味候様仕候ハ、猥りニ染直し物仕間敷与奉存候

一、在々旅人御当地古着屋ニ而買集荷物ニ致相送候類有之由及承申候、自今古着買出しニ參候旅人江壳渡候古着屋之分ハ別段ニ組合相立、

旅人江壳渡候様仕、右組合之外ニ而旅人江古着壳候者有之候ハ、此度御定之古着屋共より御訴申上候様仕、勿論此度御定之以後在々江古着壳候古着屋相増不申候様被仰付候ハ、田舎壳古着屋株ニ罷成候ニ付、互ニ吟味可仕与奉存候、尤旅人共少々宛着用ニ買候分者何れ之古着屋ニ而相調候共勝手次第ニ仕、商売物之仕入ニ多壳候古着屋計吟味之上組合相極、不吟味之者御咎被遊候様罷成候ハ、紛失物在々江遣候儀連々締り罷罷成可申哉与奉存候、勿論右組合別段ニ御立被遊候ハ、在々ニ而右之類取扱候商売人共組合之者相互ニ自然与存合可罷在儀与奉存候

一、御武家方江只今迄紛失物御触無御座候様奉承知候、然ル処呉服屋・古着屋・其外商売人より御調被成候其品之分ハ、紛敷儀も有御座間敷儀ニ奉存候得共、其者商売ニも無御座物を払物与名付持參仕候得者御家中ニ而御調被成候儀も可有御座奉存候、自今者其向々之商売人共より其品共御調被成候様相成候ハ、可然儀与奉存候  
右之趣御尋ニ付、乍恐拙者共存寄申上候、以上

寛保元年酉十二月十五日

大伝馬町	名主	勘解由
鎌倉町	同	平次郎
平右衛門町	同	平右衛門
深川元町	同	八郎右衛門
佐久間町	同	仁左衛門
本八丁堀	同	市藏
弥左衛門町		

同  
大鋸町  
伊左衛門  
同  
茂兵衛